

運動疫学 ニュースレター



日本運動疫学会
Japanese Association of Exercise Epidemiology

令和6年6月3日発行 No.21

第26回日本運動疫学会学術総会のご案内

第26回学術総会大会長／(公財)身体教育医学研究所 岡田 真平



6月29日(土)・30日(日)佐久大学を会場としたメインプログラムと、7月1日(月)東御市湯の丸高原でのフィールドセッションとで構成する、第26回日本運動疫学会学術総会を、初夏の東信州で開催します。本会充実のために様々な立場からお力添えいただいている全ての方々にも、この場をお借りして心より御礼申し上げます。参加者にご満足いただける会にすることで、最大限の謝意を表したいと考えています。

さて、本会のテーマは「社会が求める運動疫学～身体活動支援・運動指導現場の拠り所となる学会として～」としました。研究者と実践者、どちらにとっても日本運動疫学会の存在意義を再認識できる会にするとともに、両者の間に新たな交流が生まれて今後のコラボレーションに繋がるなど、有意義な機会にしたいと強く願っています。このニュースレターを見て、「ぜひ参加したい!」と思っていただいた場合でも当日参加が可能です。参加費は、会員は8,000円、非会員は10,000円ですが、学生会員は3,000円、学生非会員は4,000円です。QRコー

ドから専用WEBサイトに是非一度アクセスしてみてください。一般口頭発表、ポスター発表、企業展示、学会関連行事(プロジェクト研究報告・会務総会)の他、以下のような魅力あふれるプログラムとなっています。

皆さま奮ってのご参加を心よりお待ちしております。



6月29日(土)

- 現場連携セッション「実社会・現場に受け入れられる研究の進め方とは?～リアルワールドセッション～」
- データ活用セミナー「身体活動・運動に関する公的統計の二次利用」
- 教育講演Ⅰ「健康日本21(第三次)をはじめとする健康政策と日本運動疫学会・健康運動指導士等への期待」
- JAE-E-ASPA 国際シンポジウム“Physical Activity and Built Environments - How to Translate Research Findings into Policy and Practice”
- JAE-E-ASPA 特別講演“Some Personal History and Future Perspective on Physical Activity and Sedentary Behaviour Research”

6月30日(日)

- 教育講演Ⅱ「ウェアラブルデバイスを用いた睡眠研究の最前線:『子ども睡眠健診』の実現に向けて」
- 疫学教育講演「運動疫学の軌跡と未来—Steven N. Blair 先生、Harold W. Kohl III 先生と私たち」
- 疫学教育グループ・トーク「Talk with Experts: 日頃の疑問から研究の最先端まで!」

7月1日(月)

- フィールドセッション「高地トレーニング拠点と自然体験活動拠点の利活用」(定員制・事前申し込み制)



CONTENTS

1. 第26回日本運動疫学会学術総会のご案内… 1
2. 第78回日本体力医学会大会シンポジウムのご案内… 2
3. 第23回運動疫学セミナー開催のお知らせ… 2
4. 第9回運動と健康:分野横断型勉強会のご案内… 3
5. 「健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023」に賛同する公式声明 …… 3
6. 私と運動疫学 …… 3
7. 投稿論文の募集 …… 4
8. 渉外委員会立ち上げのご報告 …… 4

第78回日本体力医学会大会シンポジウムのご案内

学術委員／東京都立大学 田島 敬之

日本運動疫学会学術委員会では、運動疫学の知見を体力医学会会員に発信・相互作用し、連携・相互発展を図ることを目指した企画を行っています。今回その一環として、第78回日本体力医学会大会（2024年9月2日～4日、佐賀大学本庄キャンパス）でのシンポジウム「十人十色の身体活動：リハビリテーション領域における身体活動評価の課題と介入の考え方」（9月2日、16：40～17：40）を企画しました。

「健康寿命をいかに伸ばすか」は重要な公衆衛生課題ですが、その一方で病気や障害を持つ方、要支援・要介護認定を受けている方が、「自分らしく充実した生活をいかに送ることができるか」についても重要なテーマです。リハビリテーション領域では、この課題を解決する方策の1つとして、移動や活動、外出（つまり身体活動）の促進に注力しています。しかしながら、これらの対象者における身体活動評価の妥当性・信頼性や、身体活動介入におけるピットフォールなど解決すべき課題は多くあります。そこでこのシンポジウムでは、これらの課題に

取り組んでおられる先生方にご講演いただき、このテーマに関する今後の課題を議論したいと思っています。具体的には、リハビリテーション領域における身体活動と疫学研究の重要性（問題提起）については私から、脳血管疾患における身体活動については埼玉医科大学の清水夏生先生から、要支援・要介護高齢者における習慣的外出については東京大学の小野敬済先生から、運動器疾患における身体活動については日本医科大学の陣内裕成先生からお話をいただいた後、会場の先生方と意見交換をする予定です。



このシンポジウムの持ち時間は1時間と限られておりますが、運動疫学会会員のみならず、多様な専門領域の先生方と本テーマの臨床的視点から疫学的視点まで、活発に議論できれば幸いです。ぜひお誘い合わせの上、多くの先生方のご参加をお待ちしております。

第23回運動疫学セミナー開催のお知らせ

セミナー委員長／東北大学 門間 陽樹

運動疫学セミナーは「身体活動・運動の関連分野における疫学マインドを広めること」を目指し、グループワークによる研究計画立案に特化した演習形式の2泊3日のプログラムです。ベーシックコースとアドバンスコースが設定されており、ベーシックコースではわかりやすいオンライン講義と現地での解説も行われるため、体系的に運動疫学を学びたい方や初学者の方でも参加できるプログラムとなっています。講師陣は日本運動疫学会の理事・セミナー委員を中心とした運動疫学研究の第一線で活躍する先生方が担当しています。セミナーに一度も参加したことがない方、アドバンスコースを体験したい方、再度理解を深めたい方など、多くの方々の参加を心よりお待ちしております。

日程：2024年9月13日（金）～15日（日）（2泊3日）

会場：ウェルピア伊予（<https://welpiaiyo.jp/>）
〒799-3105 愛媛県伊予市下三谷 1761-1
（JR松山駅よりバスで30～45分 ※送迎バスあり）

参加申込：日本運動疫学会のホームページ
（6月上旬～中旬頃から開始予定）

受講料：

【日本運動疫学会会員】

一般（有職者） 40,000円
学生 35,000円

【非会員】

一般（有職者） 45,000円
学生 40,000円



定員：約30名（定員になり次第、締め切る予定）

各コースの課題は以下のとおりです。

・ベーシック（講義）コース

【課題】グループワークにて観察研究／介入研究の研究計画を1つ立案し、発表する。

・アドバンス（演習）コース

【課題】グループワークにて社会実装を見据えた研究計画を立案し、発表する。（必要に応じて下位課題も設定する）※アドバンスコースへの参加を希望される方はベーシックコースを修了、もしくは、疫学に対して同程度の知識や経験を有することが望まれます。

第9回運動と健康：分野横断型勉強会のご案内

学術委員長／九州大学 本田 貴紀

運動と健康：分野横断型勉強会は、身体活動と健康に関連したテーマを幅広く扱い、様々な分野の研究者が学び、交流することを目的とした勉強会です。今年度は第78回日本体力医学会大会（佐賀大学）に合わせ、9月1日（日）15時～17時にハイブリッド形式での開催を予定しています。デバイスを用いた測定・評価のめざましい発展を踏まえ、テーマを「スマートフォン・タブレットを活用した疫学調査～デバイスによるアセスメントや遠隔調査の可能性～」としました。日常に浸透したデバ

イスを活用し、活動や体力の多様なドメインを柔軟に調査できる可能性について議論したいと考えています。ぜひ奮ってご参加ください。

最後になりますが、2023年10月より学術委員長の任を引き継ぎました。前委員長の原田和弘先生の丁寧なお仕事に習いつつ、企画の充実を図っていききたいと思



「健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023」に賛同する公式声明

公式声明委員長／神戸大学 原田 和弘

厚生労働省は、2024年1月19日に、「健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023」を発表しました。これを受け本学会は、このガイドに賛同することを主旨とした公式声明を、2024年4月4日に発表しました。また同日に、公式声明の発表を報道各社にプレスリリースしました。公式声明の発表とプレスリリースが、このガイドの関係者への普及啓発の一端を担う役割や、身体活動・運動の促進に関する取り組みを後押しする役割を果たすことを願っております。公式声明の本文や、プレスリリースの文面は、以下のwebサイトより参照できます。ぜひとも先生方の教育・研究・社会貢献活動にお役立ていただくとともに、身近のご関係の方々にご周知いた

れましたら幸いに存じます。

<公式声明の本文掲載のwebサイト>

[https://jaee.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/公式](https://jaee.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/公式声明_健康づくりのための身体活動・運動ガイド.pdf)



声明_健康づくりのための
身体活動・運動ガイド.pdf



<公式声明のプレスリリース掲載のwebサイト>



<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000081607.html>

私と運動疫学

（公財）身体教育医学研究所 岡田 真平

私と運動疫学は、1996年当時大学院の先輩で、研究所元上司の上岡洋晴先生（東京農業大学）が研究ミーティングで話題提供されていたのが最初の出会いでした。ただ当時の僕は、研究手法の学びよりも、教育・スポーツ行政に関わるキャリア形成への意識が強かったように思います。ところが縁あって武藤芳照先生（東京大学名誉教授）が発案した長野県北御牧村（現東御市）の身体教育医学研究所に立ち上げから参画し、地域密着でスポーツ振興や公衆衛生活動に研究機関の一員として関わる立場になったことから、気づけば運動疫学が無くてはならない大きな存在になっていました。そして、2005年に筑波大学で開催された日本体育学会で田中喜代次先生（筑波大学名誉教授）にお世話になった際、中田由夫先生から運動疫学セミナーへの参加をお勧めいただいたことが、本会に参加するきっかけとなりました。同じ頃（2006年）島根県雲南市に姉妹研究機関として「身体教育医学研究所うなんん」が開所し今日に至るまで共に歩んできましたが、ご存知の方も多いかと思いますが、島

根県雲南市からは、北湯口純先生、鎌田真光先生、安部孝文先生らを中心に、非常に質の高い運動疫学研究の成果が生まれてきました。一方、私はその後東京医科大学にも籍を置かせていただき、井上茂先生、福島教照先生はじめ先生方にお世話になってきましたが、お恥ずかしながら私自身の力不足で地域データの取り扱いへの悪戦苦闘が続いています…



そんな私ですが、日本運動疫学会には研究会時代から長くご縁が続き、運動疫学セミナーの招聘（信州小諸）、プロジェクト研究委員（前期まで）、理事（今期から）、そして学術総会では前回25回（中京大学）での基調講演と今回26回（佐久大学）での大会長と、ずっとお世話になってきました。恩師の座右の銘である「縁と運と恩」を大切に、これからも運動疫学分野の発展に微力ながら貢献していききたいと思

投稿論文の募集

会誌「運動疫学研究」編集委員長／東京都健康長寿医療センター研究所 笹井 浩行

会誌「運動疫学研究」への論文投稿を募集しています。本誌は「人の健康および運動の疫学に寄与する研究発表の場を提供し、運動疫学研究の知見を利用する人を含めて、運動疫学研究に携わる人々のコミュニケーションを促進すること」を目的としています。記事種は総説、原著、資料、実践報告であり、二次出版論文も受け付けています。著者に会員が含まれば投稿可能です。査読は極めて建設的である上に、概ね2～3週間で編集判断をお返しています。現状、投稿・出版費用は無料です。掲載決定後、

速やかにJ-STAGEに早期公開され、DOIが付与されます。また、本学会は日本学術会議協力学術研究団体に登録されており、本誌への論文掲載が学位取得要件として数えられる大学院もあります。学術総会では優秀論文賞の表彰もしています。本誌は最小限の費用で多くのメリットがある、コスパの良い雑誌です。ぜひ会員の皆さまから、本誌への積極的な投稿をお願い申し上げます。



他学会との連携を深めていきますー渉外委員会立ち上げのご報告

渉外委員長／東京医科大学 井上 茂

日本運動疫学会では新しく渉外委員会を立ち上げました。メンバーは下記の通りで、今後、国内学会、国際学会、他団体との連携を推進していくこととなります。

立ち上げのきっかけは、オーストラリアやニュージーランドなどの身体活動研究者が中心となって運営しているASP(A) (Asia-Pacific Society for Physical Activity) との連携がありました。この国際学会に参加されている日本人研究者も少なくないのではないかと思います。先方からの誘いがあり、日本運動疫学会はASP(A)と連携の覚書を交わしています。渉外委員会ではASP(A)との連携も含めて、会員の研究が活性化できるような連携を行っていく予定です。まずは手始めとして、第26回日本運動疫学会学術総会(2024年6月@長野県佐久市)において、共同企画を開催する予定です。今後とも、ご支援のほどよろしくお願い致します。

渉外委員会のメンバー

井上茂(東京医科大学、委員長)、喜屋武亨(琉球大学、副委員長)、阿部巧(明治大学)、大須賀洋祐(国立長寿医療研究センター)、柴田愛(筑波大学)、小熊祐子(慶應義塾大学)、杉山岳巳(Swinburne University of Technology)

第26回学術総会(2024年6月)での共同企画(現地・オンラインのハイブリッド)

1) 特別講演: Some Personal History and Future Perspective on Physical Activity and Sedentary Behaviour Research.

演者: Neville Owen (Swinburne University of Technology and the Baker Heart & Diabetes Institute)

2) シンポジウム: Physical Activity and Built Environments - How to Translate Research Findings into Policy and Practice

シンポジスト: Kimihiro Hino (University of Tokyo), Jenny Veitch (Deakin University), Hiroyuki Kikuchi (Tokyo Medical University), Venurs Loh (Victoria University, Deakin University), Manoj Chandrabose (Swinburne University of Technology)



日本運動疫学会の最新情報は公式ホームページを確認してください。公式HP: <http://jaee.jp>

- ・会員の投稿論文を募集しています。
- ・会員の運動疫学研究を支援しています(セミナー、勉強会、プロジェクト研究)。
- ・新規会員を随時募集しています。



発行: 日本運動疫学会
編集: 日本運動疫学会 広報委員会
日本運動疫学会事務局

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15
早稲田大学スポーツ科学学術院内
E-mail: jaee.info@gmail.com